

# 京城日報

刊夕日四月二 (アハセ世刊日)

## ●獨講和條件近々發表

前回の條件に比し、護歩的  
獨講和條件に近づく結果として、護歩的  
護歩的のものと云ふべきであらう。

## ●罷業鎮壓強手段

一日官憲は罷業を強手段で鎮壓するが、  
罷業を強手段で鎮壓するが、

## ●警官罷業者活劇

警官と罷業者との衝突、警官一名殺され罷業者  
十二名負傷、警官一名殺され罷業者

## ●革命煽動計畫反響

レ政府の企圖、下級階級の不穩行爲  
レ政府の企圖、下級階級の不穩行爲

## ●リユニチンの免官

リユニチンはイルク  
リユニチンはイルク

## ●總統妥協希望

總統は一日  
總統は一日

## ●筑紫中將遣歐

筑紫中將は  
筑紫中將は

## ●佐藤大使歸朝

佐藤大使は  
佐藤大使は

## ●學位授與決定

學位授與は  
學位授與は

## ●總督學校巡視

總督學校は  
總督學校は

## ●東拓企業

東拓企業は  
東拓企業は

## ●奉天省の財政難

奉天省の財政は  
奉天省の財政は



奉天省の財政難を論議する者たち

## ●内地米實收高

内地米實收は  
内地米實收は

## ●金本位の統一

金本位の統一は  
金本位の統一は

## ●正金銀行

正金銀行は  
正金銀行は

## ●奉天省財政の前途

奉天省財政の前途は  
奉天省財政の前途は

## ●内地米相場

内地米相場は  
内地米相場は

## ●軍需品輸送

軍需品輸送は  
軍需品輸送は

## ●湖北援軍の急行

湖北援軍の急行は  
湖北援軍の急行は

## ●南軍大討伐準備

南軍大討伐準備は  
南軍大討伐準備は

## ●京電幹部決定

京電幹部決定は  
京電幹部決定は

## ●木本専務歸朝

木本専務歸朝は  
木本専務歸朝は

## ●大阪たより

大阪たよりは  
大阪たよりは

## ●軍需品輸送

軍需品輸送は  
軍需品輸送は

## ●湖北援軍の急行

湖北援軍の急行は  
湖北援軍の急行は

## ●南軍大討伐準備

南軍大討伐準備は  
南軍大討伐準備は

Table with multiple columns containing various news snippets and advertisements.








◇日本より優れた醫學專門學校  
◇支那人卒業生は早速お醫者成金

外國に留學の時、丁巳年、  
光緒した教授が十五名からある。  
實に植民地にある學校としては内地に遜色なき、いや、内地を凌駕する程の堂々たる學校である。

◆南滿醫學堂 ◆は今年新入學生の募集を始めた。試験は奉天



になつたもので最中は今よりも一層究極した状態にする積りでであつたらしい。目下支那には英商米店

◇宣教師の經營◇ にな  
る歸國者も多くその卒業生も澤山  
あるが、彼等は皆々實業に力を入  
りて居るが昨大正六年中の絹布に  
對及び絹を賣れば

年販賣額の四割は外國の一大  
衆は逐年良好の成績を取つ  
其機械織物は、絹布、綿布に  
細布は販賣額、絹布は家用用  
に居るが昨大正六年中の絹布

は何か南滿醫學堂の特長がなけれ  
ばならぬと云ふところから内地の  
醫學專門學校よりもつと進んだ  
學校、完備した學校にして大に補  
内地の開發を資けたいといふ希望  
の下に出来たといふものである。望  
すしに

在來種七、改良種一なり更に

◆嵐の前

××リ  
××第

りはあらゆる點に於て優れて居る  
きふよである、醫聖堂は昨年以  
て日本人の第三回の卒業生を出し  
た、今年の七月には第四回の南渡  
醫聖堂卒業生を出す等、支那人の  
醫聖堂に二年を過れたから昨年一  
見受けられ皆地味を蒙り、本年へ

〇第一回卒業生〇 四々々々  
 〇指し今年第二回が卒業するの候  
 大々々々は阿れは學校の御先生  
 〇劉雲雨下説 同地に於ては  
 〇哈爾濱同業諸君の疾苦亂れ  
 〇省にも出會せり  
 〇の目的を以て産物買入に赴き

A black and white photograph of a large, multi-story building, likely a government or institutional structure. The building has a classical architectural style with multiple windows and a prominent entrance. On the left side of the building, there is a sign that reads "GOVERNMENT BUILDING". The building is surrounded by trees and other vegetation.

支那兵の駐屯に際して人心を驚か  
し居るも程遠からぬガオル市には  
英國兵一師團(約七千名)の駐屯  
すあり茲に哈爾濱を逃竄したる  
激派のソウチンに款を通ずる者  
からざると支那兵に對しては頗

又邦人等の引揚 開市在住の邦人等は現今約二百七十名内外にして孰れも萬一の隙を慮りて引揚

×リウチン南下説——邦  
×第二の哈爾濱——列

顔の者もわ一方には  
 爲り市價の下落せる  
 買集めて降下させる外  
 近來販路擴大せる  
 面にも買集めて降下させる外  
 居らざる如く  
 手仕に委せらるべきは言を俟た  
 る處なり

山を以て産物買入に赴き居る  
 山せり  
 同地に於ては一時  
 兩山嶺の秩子に於ては  
 兩山嶺の秩子に於ては

外人等の引揚 町市在住の邦  
 等は現今約二百七十名内外にして  
 孰れも萬一の隙を慮りて引揚  
 箱を繋へ着て繋ぎ足すは二百上

同江は大岡郡北方、酒蔵連  
南方、最俗南風に至る江流

繁茂に就ては何れ江面掃除  
一齊に引揚を成し得らるゝ  
をなして營業をなし居ると  
の點に於て浮腰にて何等か  
確定の時期を待ち居れる狀

人間に有りては萬一事變動も邦人には危害を及ぼさざれば觀なし居る者も多し

第二の哈爾濱 近來同市に發展は蒙古方面及び奥地より

二の哈爾濱とも云ふべき  
すべき地とならんと像測さ  
民は孰れも多大の嚮望を有  
大の企業をなす者あり

北滿洲の薪炭  
に於ける電信、電話、電燈  
電柱は杉材を使用し來りし

に耐へ面かも價格は極めて  
高方面より産出する者も亦  
らざれば將來耗用として  
倍す旺んごなるべきかと

**藻草採取申**

染織生産

組合	大正四年度 昭和五年度	一、九七〇 二、三六八
綿織	昭和五年度 昭和六年度	二、三七八 二、三八一
合計		二、三八一

等にして更に同年中の原  
先むるに前年より甚越の  
ほど染織所製出の生糸

大連

味があつてストライキでは無い事が判明し、己の現狀をストライキは感らぬ程にしかく非難をあると決して思つて居

大正七年正月  
海州  
地方法院

[illegible][illegible]

\_\_\_\_\_



[illegible]



遊支偶錄

(三) 日本の自給自足

朝館古蹟

百濟の勢力任那及び

今西龍氏談

に從つて全海との交通も段々大

氣になつて來て安置を云ふ加勢  
國の中心になつて居たやうで

が、段々交通が困難となり加

直接の交通さへ出来ないやうにな

出してやらねばならぬやうにな

して百濟の勢力は段々を任那に

及び群衆監司を置いて専横をや  
したのである。此の時安羅に居た

内臣那が白濁と手を握つてゐた  
と日本に譯字が分らない。加羅

國は百所の處置に憤慨して新羅

上海の側部は朝鮮の歴史には餘

の倭父滅んだやうに三國史記抄

前には全海の加解で接

内職の伽師である。崔致遠の文にも加羅國記には二つの説があ

と見るが、此の師郎の滅んだ  
に目もは救済軍を出したか、空

して仕置した。さて新屋は決し

そこで江那の渡り役と通も、

仕方の悪いものであるからと  
いって、毎年日本に貨物を持つて

たのである。之は仲々巧へたやうである。

つとめて大に儲けるから、

して損にならない。歴史の上で

欽明天皇の二十三年に任那が滅  
たことになつてゐるが、依然と

任那の貢物が來てゐるのは期  
に關係に基づくものである。次

天皇の二十三年に滅びたる任那

もう一つ入れて任那大討伐がある

たやうになつて来るが、是は十  
十二支を間違へたので欽明天皇

二十三年の所も推古天皇の六十  
の所もよく見ると大將の名前が

く似てをる、多少位階杯が違ふ  
 殆んど同じである所から見ても

退であることが分かる。

「作天」の糸の巻

朝鮮商業學校  
高等女學校  
高等普通學校


學試驗問題集  
答案集

四六版  
二百餘頁  
定價  
金五拾圓  
送料四圓

學生諸君 御待兼の入学試験  
買ふて入學の榮を得られ事を

大阪屋號

京城日報社代理部  
日韓書房



健康となる金科玉條は  
蜂印香鼠葡萄酒を  
毎食前飲用するにあり  
さすれば血を増し肉を肥し  
知らず証らする健康體となる

司法大臣 松室 致閣下題字  
加古貞太郎先生序文  
關西大學校友 越智唯七編纂

新舊 朝鮮全道府郡面里洞名稱覽  
對照

大正七年一月一日現在正統表附圖クローベ金文字入南政千五百十頁定價金三圓郡稅十八錢  
朝鮮に精通せんとするものには朝鮮全道の行政區域は確定せり然れども又  
一日瞭然たるの書籍なく執務上は勿論參考上將又  
朝鮮に精通せんとするものには朝鮮全道の行政區域は確定せり然れども又  
所の所在地を示し本尼に朝鮮の沿革日鮮清西歷  
の詳細對照年號を示し管區數人口戶數道路里數  
各道の産業交通產物名稱舊跡溫泉其他の概況を掲げ  
本書は官廳を初め政治家實業家學者交通産業其の  
他苟も朝鮮に關係を有する士の須臾も缺くへからさ  
るの必携書なるは勿論内地と朝鮮との關係は諸事日  
に密にして殆んど隣家の感あるに於て益々其の必要  
なること敢て多言を要せざるべし此際諸君に以て發行  
せられんことを期す

發賣元 京城日報社代理部

紀元節ノメダタイ  
澤之鶴 特約店  
藤佐 代理店  
電話 二四九番  
電話 二四九番











第百四十二回 大反響の家主

A high-contrast, black and white illustration of a rooster standing on a nest of straw. The rooster is depicted in profile, facing left, with its head tilted upwards and its beak open as if crowing. Its feathers are rendered with heavy black strokes, giving it a textured, almost abstract appearance. To the left of the rooster, a small, fluffy chick is visible, partially obscured by the straw. The entire scene is set against a stark white background, with the straw of the nest represented by simple, dark lines.

こりや叩けぬ、やつぱり助左衛門。義理を立て、湯湯を吞まれば爲らねどあらう。また觀念して、元の臥床へ還り入つた。一番鶏が鳴き、二番鶏が鳴き、延命寺の鐘の音が、錦川を渡つて来る。「やつ」と氣合を掛けて、助左衛門が臥床を離れる。利右衛門は一睡もせぬ月皮重げに、これもむく／＼起き上る。「好い天茶ぢや、一押に紀見峠を押すて殺さう」今日日明の留を途げる事があるかと思ふと、助左衛門は生々ど刀が籠る。「左様殺さう」利右衛門は助左衛門の元氣なだへ、それだけ衰へが見えて来た。夕方に海しなる坂路を登りながら、すつかりて大が明けた。東の山をとお出なさる天道のお姿を見せられ、何と喜ぶいではないか。あの御光りの照る間は、正義必らず勝を得申す」ばん／＼と抗して、一心に往き、利右衛門はそこにある茶店へ腰かて「茶さん、茶を一つ呉れないか」「はい、お早にお出發でございますな」「これから峠までは何れほどある」「五十丁でございます」「随分遠いもの」「動しい臥ちやございません、この峠が紀州の鐵壁でございますわな」「此の邊は誰方の御領分ぢや」「大阪の御支配でございます」

[illegible]

冬季雜誌

[illegible]

新刊紹介 (到着)

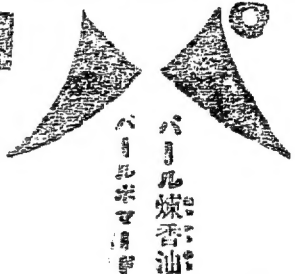
[illegible]

戰

第五局の四  
大久保雅彦氏  
三十一  
五十八  
六十八  
七十八  
八十八  
九十八  
一〇八  
一〇九  
一〇七  
一〇六  
一〇五  
一〇四  
一〇三  
一〇二  
一〇一  
一〇〇  
九九  
九八  
九七  
九六  
九五  
九四  
九三  
九二  
九一  
九〇  
八九  
八八  
八七  
八六  
八五  
八四  
八三  
八二  
八一  
八〇  
七九  
七八  
七七  
七六  
七五  
七四  
七三  
七二  
七一  
七〇  
六九  
六八  
六七  
六六  
六五  
六四  
六三  
六二  
六一  
六〇  
五九  
五八  
五七  
五六  
五五  
五四  
五三  
五二  
五一  
五〇  
四九  
四八  
四七  
四六  
四五  
四四  
四三  
四二  
四一  
四〇  
三九  
三八  
三七  
三六  
三五  
三四  
三三  
三二  
三一  
三〇  
二九  
二八  
二七  
二六  
二五  
二四  
二三  
二二  
二一  
二〇  
一九  
一八  
一七  
一六  
一五  
一四  
一三  
一二  
一一  
一〇  
九  
八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一

金部專情金鑑

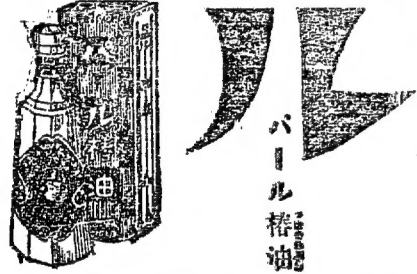
月初金融狀態 大節季決算資金の需要を發生する忙



元備毛髪

日本内地は勿論海外各地に巨多の愛用者を有し昨今殊に海外の輸出大に急増を著す

平不  
見一  
ル一  
大



經濟的文房具  
要目に加へる  
の最も適切な  
ものは、故に  
此の金パイ  
ンビジネス  
ペンの先を  
特製鋼製の  
特殊鋼製の  
筆入れ物に  
よりて金ペン  
の首後には  
耐久力が増  
進する。又  
この金パイ  
ンビジネス  
ペンは各銀  
行、會社、  
官廳、學校  
等に用ゐら  
れる。

定價 金壹圓九拾五錢

全道を公府とし、上置を司、(重慶、鳳城、正府、同安)

支那富源楊子江に發し盛名噴々たりものありしが今同一河口の地理  
道府郡行政區域の改正及其後各道に於ける廢合に依る最新の朝鮮地理書

沿革位置境界地勢氣候產物人種族別戶口言語文字風俗宗教教育及居住行政經濟產業商業交通を記し

沿革位置地勢交通經濟產業商業戶口山河地上百餘方所に於て沿革位置地勢交通商賈

を記し加ふるに實用的各種の参考表を以

書は附録にアイウエオ別道府部縣面索引及内閣  
府關東州樺太地名表及五十音別日次を追加  
朝鮮諺文を附し日本假名を以て音讀を附加  
朝鮮語の連絡を知るに便するを目的とし、内閣  
書は内鮮人を問はず官民を論せず朝鮮に於て  
諸般の事に從ふ士の最新最好の案内者指導書  
書は各種學校各官衙各銀行各會議に最も關係  
者各地の必要なる各般の事項を彙集せるを以  
種學校、講習會の長參考書なりとす

湖鮮を經營し又旅行せんもの爲めに充分なる調査研究資料を供し

富り最良指針（危険なからしめたり）  
 書は名山麗水名所古蹟に關する詳細なる調査資  
 と供し遊覽者の探勝歴史家の探充に便せり  
 全編五百頁文を攝けは巻を覆ふ能はざるを幾何冊之ならす座して各地の事情に精通するを  
 得て全篇諸般の事項に當り然るに活動するを得せしむることを注意せり  
 資料を正確に到し詩文を各所に配在し讀者として多感ならしめ  
 大體切を極め詩文を各所に配在し誠に當時の好なりとす  
 情に精通せんとする有志者は速にこれを購ひて左右に備へ

發行所 京城日報社代理部  
 東京太平通一丁目  
 振替彙票三〇〇番  
 大阪屋號 巖松堂 日韓書房 ウツボヤ書店

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

此藥專治男女一切瘡毒，無論新舊，一服即愈。每盒售銀五元。

京都永樂町

龍山、連江、連江、角道北

三川 仲町三丁目  
新田 明治町  
砂屋 陸西里  
星南 寺町  
西白 助車若發時刻  
東白 トラツタ會合支店  
東白 トラツタ會合支店

日本郵船出帆

[illegible]

○料第奈、嚴原、宣鼓、博多、

**仁川代船**  
 元山代船店  
 京城代船店  
 河村連吉店

**共同汽船出帆**

大連行 船名 日期 時刻

三月廿二日 三月廿三日 三月廿四日

三月廿五日 三月廿六日 三月廿七日

三月廿八日 三月廿九日 三月三十日

三月三十一日 四月一日 四月二日

四月三日 四月四日 四月五日

四月六日 四月七日 四月八日

四月九日 四月十日 四月十一日

四月十二日 四月十三日 四月十四日

四月十五日 四月十六日 四月十七日

四月十八日 四月十九日 四月二十日

四月二十一日 四月二十二日 四月二十三日

四月二十四日 四月二十五日 四月二十六日

四月二十七日 四月二十八日 四月二十九日

四月三十日 五月一日 五月二日

五月三日 五月四日 五月五日

五月六日 五月七日 五月八日

五月九日 五月十日 五月十一日

五月十二日 五月十三日 五月十四日

五月十五日 五月十六日 五月十七日

五月十八日 五月十九日 五月二十日

五月二十一日 五月二十二日 五月二十三日

五月二十四日 五月二十五日 五月二十六日

五月二十七日 五月二十八日 五月二十九日

五月三十日 六月一日 六月二日

六月三日 六月四日 六月五日

六月六日 六月七日 六月八日

六月九日 六月十日 六月十一日

六月十二日 六月十三日 六月十四日

六月十五日 六月十六日 六月十七日

六月十八日 六月十九日 六月二十日

六月二十一日 六月二十二日 六月二十三日

六月二十四日 六月二十五日 六月二十六日

六月二十七日 六月二十八日 六月二十九日

六月三十日 七月一日 七月二日

七月三日 七月四日 七月五日

七月六日 七月七日 七月八日

七月九日 七月十日 七月十一日

七月十二日 七月十三日 七月十四日

七月十五日 七月十六日 七月十七日

七月十八日 七月十九日 七月二十日

七月二十一日 七月二十二日 七月二十三日

七月二十四日 七月二十五日 七月二十六日

七月二十七日 七月二十八日 七月二十九日

七月三十日 八月一日 八月二日

八月三日 八月四日 八月五日

八月六日 八月七日 八月八日

八月九日 八月十日 八月十一日

八月十二日 八月十三日 八月十四日

八月十五日 八月十六日 八月十七日

八月十八日 八月十九日 八月二十日

八月二十一日 八月二十二日 八月二十三日

八月二十四日 八月二十五日 八月二十六日

八月二十七日 八月二十八日 八月二十九日

八月三十日 八月三十一日 九月一日

九月二日 九月三日 九月四日

九月五日 九月六日 九月七日

九月八日 九月九日 九月十日

九月十一日 九月十二日 九月十三日

九月十四日 九月十五日 九月十六日

九月十七日 九月十八日 九月十九日

九月二十日 九月二十一日 九月二十二日

九月二十三日 九月二十四日 九月二十五日

九月二十六日 九月二十七日 九月二十八日

九月二十九日 九月三十日 十月一日

十月二日 十月三日 十月四日

十月五日 十月六日 十月七日

十月八日 十月九日 十月十日

十月十一日 十月十二日 十月十三日

十月十四日 十月十五日 十月十六日

十月十七日 十月十八日 十月十九日

十月二十日 十月二十一日 十月二十二日

十月二十三日 十月二十四日 十月二十五日

十月二十六日 十月二十七日 十月二十八日

十月二十九日 十月三十日 十一月一日

十一月二日 十一月三日 十一月四日

十一月五日 十一月六日 十一月七日

十一月八日 十一月九日 十一月十日

十一月十一日 十一月十二日 十一月十三日

十一月十四日 十一月十五日 十一月十六日

十一月十七日 十一月十八日 十一月十九日

十一月二十日 十一月二十一日 十一月二十二日

十一月二十三日 十一月二十四日 十一月二十五日

十一月二十六日 十一月二十七日 十一月二十八日

十一月二十九日 十一月三十日 十二月一日

十二月二日 十二月三日 十二月四日

十二月五日 十二月六日 十二月七日

十二月八日 十二月九日 十二月十日

十二月十一日 十二月十二日 十二月十三日

十二月十四日 十二月十五日 十二月十六日

十二月十七日 十二月十八日 十二月十九日

十二月二十日 十二月二十一日 十二月二十二日

十二月二十三日 十二月二十四日 十二月二十五日

十二月二十六日 十二月二十七日 十二月二十八日

十二月二十九日 十二月三十日 一月一日

**大連行**  
 元山代船店  
 京城代船店  
 河村連吉店

安个九 一月十一日 後九時

[illegible]

京城切實愛國同盟運動會社支店

[illegible][illegible][illegible]

山泉

辰平丸	一月一日	山田發
清洋丸	(大塚神戶門司より)	山田發
小龍丸	二月三日	木浦發
南陽丸	修繕中	木浦發
慶典丸	二月三日	木浦發
仁川丸	二月一日	仁川發
金州丸	二月一日	仁川發
全陽丸	九休船 每日	仁川發
南陽丸	一休船 毎日	仁川發
其日結水	各々依行ノ事アリ	
有船往來	大連港止	仁川發
津防丸	二月一日	山田發
辰平丸	一月一日	山田發